報告

モデル事業実施成果と課題

「ICTを活用した養液土耕栽培による省力化と生産性向上への取り組み」

モデル事業A　（株式会社ルートレック・ネットワークス）

今作は日照不足が続きましたが、トマトは順調に生育推移し、収量や品質も安定していました。特に品質においては、果実の変形が少なく、消費者ニーズが高いとされる中玉サイズが多く結実しました。従来はかん水施肥管理を手動で行っており、日々のルーチンワークの一部となっていました。今回ゼロアグリを導入したことにより、かん水施肥は完全に自動化され、労働時間の削減につながりました。労働時間が削減されたことにより、農業者は脇芽かき、摘果作業等に注力することができました。農業者自身も作物の生育状況、トマトの品質ともに満足のいく結果となりました。

機械の精度を高めるためには、より多くの実験サンプルが必要となりますが、作物の生育には時間がかかるため、今後も継続した取り組みが必要です。川崎市の農業は少量多品目生産の農家が多いため、ゼロアグリ1台で複数の作物のかん水施肥管理の実現を目指します。

「遊休農地の活用と障がい者の雇用創出」

モデル事業B-2　（有限責任事業組合次世代農業・食品循環研究所）

平成28年度に引き続き、29年度も継続して花き農家、みかん農家で農作業を実施することになりました。みかん農家で収穫したみかんを加工し、みかんジャムの製造販売も予定しています。また、川崎市立中央支援学校中等部の農作業の授業をはぐるまの会の農園で実施することや、「農の協力会」の指導のもと、神奈川県立麻生養護学校で、はぐるまの会の利用者による農作業の手伝いが実施されることも決まり、学校教育との連携も進んでいます。

今後、協力農家の拡大に向け、農家に役立つ作業に対応可能な福祉施設の拡充を目指し、しごとセンター等を介した農作業のメニュー化を図ります。また、川崎発の6次産業化拡大に向けて、商品メニューの拡充や販路開拓、福祉施設・グループホーム・学校給食での活用促進に取り組みます。
今後更なる農福連携を核とした持続性のある都市農業の構築を図るため、事業主体の設立を検討します。

「カワサキの地酒「田ゆう」を復活させるプロジェクト」

モデル事業B-1　（一般社団法人カワサキノサキ）

モデル事業を通して、これまで以上に多くの農家や市民、多業種との交流が深まりました。また、「田ゆう」の発起人、米農家さん達と共に、酒蔵会社を何度か訪問した結果、新しい地酒づくりが決まりました。また、市内の農家さんにも酒蔵や田んぼを見てもらった結果、次年度以降で酒米づくりをスタートさせるところまで進展が図られました。

酒米及び地酒づくりの目途がたったなかで、最終目標である早野地区の遊休農地の解消を実現するため、早野地区での活動の足がかりを作ることが課題です。市民を始めとした多くの人を巻き込んで「農」を通じた情報の共有や実体験の提供を今後も続けていきます。

「アスパラガスの新たな栽培方法　新規ホーラーを使った『採りっきり栽培』」

モデル事業C　（明治大学農学部）

アスパラガス栽培は毎年、株の更新が必要であるため、今年度は病気のリスクが軽減できる栽培方法を周知するためのセミナーや講習会の開催をメインに行いました。実際の栽培については平成28年度は定植までで、栽培面での成果検証ができるのは、平成29年度となります。
（平成29年３月に定植を行い、収穫は平成30年３月頃を予定）

初年度の黒川地域でのアスパラガスの収穫を成功に導くため、適時栽培指導を行うことが必要となります。また、明治大学内で一定の成果を上げている栽培法であることから今後の普及面に関しても大いに期待することができます。

川崎市「農商工等連携推進事業」PR誌

発行日　平成29年3月
発行者　川崎市農業振興課

川崎でつながる都市農業

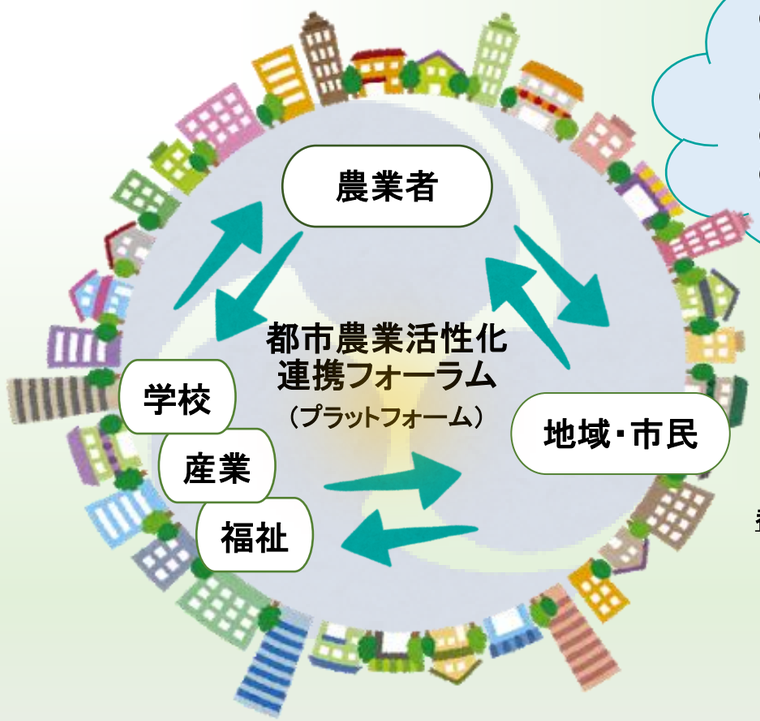
～都市農業活性化連携フォーラム、モデル事業を通じて～

「農商工等連携推進事業」とは？

川崎の農業が多様な主体との共生により新たな農業価値の創造を図ることを目的としており、平成28年度は、「都市農業活性化連携フォーラム」を設置し「連携の場」づくりを行うほか、連携を進めるための先導モデルとして、3つの連携分野において4つのモデル事業を実施しました。
多様な主体を抱える川崎で、多様な主体が出会い、連携することによって両者の有する強みを発揮し、川崎らしい都市農業が生まれ、展開、発展していくことを期待しています。

3タイプの連携モデル事業

- 農業 情報 **A** ICTを使った施設園芸における省力化・効率化
- 福祉 農業 学校 **B** 福祉農業者等による遊休農地の活用
- 地域 農業 学校 **C** 農業系大学と地域が連携した農業振興地域の活性化



◎市内産農産物の付加価値向上
◎農作業の省力化・効率化
◎地域の活性化
◎市内農業者への普及展開

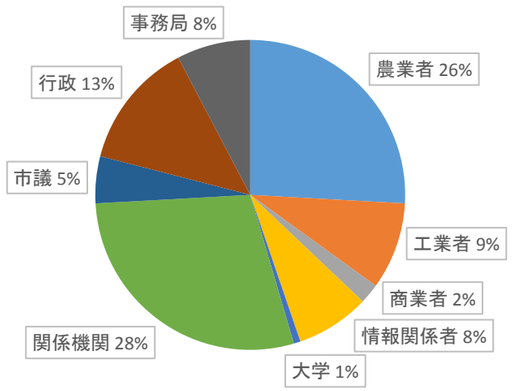
都市農業活性化連携フォーラムでの活動

- ◆成果・事例発表
- ◆情報共有・発信
- ◆マッチングの醸成
- ◆モデル事業の取組・活動報告

都市農業活性化連携フォーラム 開催結果

キックオフ　～新たな連携のはじまり～

参加者143名



平成28年6月27日(月)てくのかわさきてくのホールにて、キックオフとなる第1回目の都市農業活性化連携フォーラムが開催されました。第1部では、川崎市経済労働局長による基調講演「川崎市の都市農業について」では、川崎市の農業の現状や、都市ならではの川崎の農業が抱える課題等が話されました。

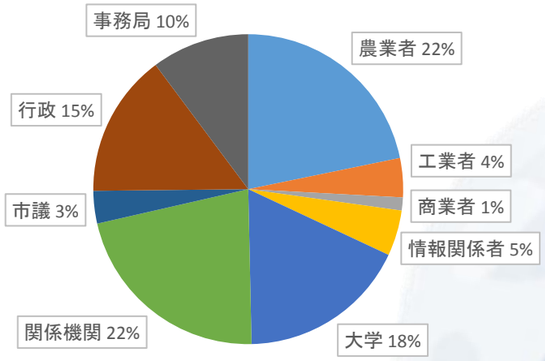
川崎の農業が抱える課題として、農業従事者の高齢化や担い手不足、限られた農地での生産の効率化、農業振興が抱える深刻な高齢化と遊休農地の発生、都市農地保全の必要性のPR不足、といったことが挙げられ、その後、川崎市内で既に連携を実践している3つの事例を各事業者が発表しました。

第2部では、市内農業者と和菓子店が連携して商品化された「トマト大福」(和菓子店のご厚意により提供頂きました)などを試食しながら、講演者を含めた参加者全員で、意見交換会が開催されました。農業者と製造事業者が施設園芸資材の製作について話し合ったり、農業者と工業者の間では、抗菌作用のある熊笹を千葉から搬入して使っていたが、市内の竹林の竹を代用できないか検討したいといった話もでてくるなど、今後の連携が期待できる場となりました。

また、禅寺丸柿ワインでの乾杯を行うことで、連携事例としての地場産商品や関係者のアピールにもつながりました。

第　2　回

参加者147名



第2回となる都市農業活性化連携フォーラムは、開催当日(平成28年10月28日(金))雨天のため足元も悪い状況でしたが、会場の総合自治会館1階ホールにはたくさんの参加者にお集まりいただきました。今回は大学生も加わり、フォーラムの雰囲気は和らぎ、意見交換も弾んだ様子でした。

第1部のフォーラムでは、農林水産省食料産業局食文化・市場開拓課和食室長による基調講演「実りの秋に考える川崎農業の可能性」と、和光大学表現学部芸術学科長による特別講演「農業とデザイン」が行われました。農林水産省の西室長からは、都市農業の先進事例として理解を得ることができました。また、農業とデザインとのコラボレーションについて、参加者は真剣に聴き入り、可能性を感じている様子でした。

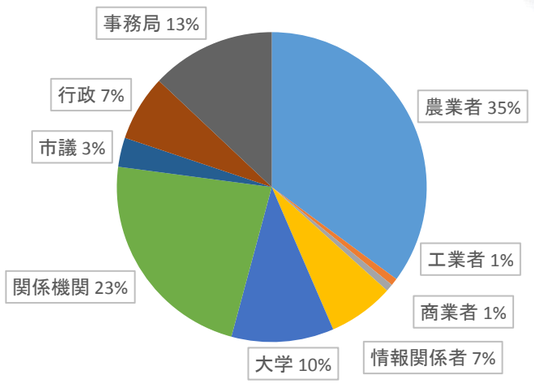
今回のフォーラムでは、キックオフ時参加者とは異なる方も参加しており、第2部の意見交換会では、多業種間での情報交換や意見交換などが活発に行われました。

また、意見交換会では、市内で生産、販売している加工品を試食しながらの場となりました。市内産の梨を加工した梨ジャム入りトレインパウンドケーキと、明治大学と市内洋菓子店が連携して商品化されたほうれん草チーズケーキ(写真：右)や、市内産ジャガイモを市内小売店が調理したポテトフライと市内産完熟トマトを加工した手作りトマトケチャップ(写真：中央)市内で製造販売しているクラフトビール(写真：左)がふるまわれました。

アンケートや個別に聞こえてきた参加者の声からも大変好評であり、こういった場が定期的に用意されることが必要といった、来場者の声も確認できました。

～更なる連携に向けて～　第　3　回

参加者131名



平成28年度の活動の総括となる、第3回都市農業活性化連携フォーラムが平成29年3月24日(金)川崎市内の農産物直売所であるセレサモス宮前店(2階)モスぴーホールで開催されました。今回のフォーラムの第1部では、モデル事業の成果発表と、奥野田葡萄酒醸造株式会社　代表取締役による基調講演「ワインとICTのおいしい関係」～ぶどう栽培とICTの連携～が行われました。富士通株式会社との連携により畑をICTで「見える化」し、殺菌剤や殺虫剤を本当に必要なときだけ散布し、畑の生態系を壊さないようにするという取り組みについて紹介されました。

代表取締役の中村氏は29年前にワイン造りをはじめ、そこから約9年後に就農しました。その後、8年前に富士通と知り合って意気投合した経緯やワイン造りの苦労、ICTを導入したきっかけや、成果等を話してくれました。

第1部の最後に、市内農業者の抱える課題について、担い手連絡会の各代表者が発表し、後継者問題や窃盗対策、機械導入補助、ゴミのポイ捨て問題等が挙げられ農業者以外の参加者にも考えるきっかけを提供しました。担い手連絡会が今後の連携における牽引役となることが期待できそうです。

第2部では試食調理を市内農業の女性担い手任意団体である「あかね会」に担当してもらい、かわさきハーブソーセージや、市内産のらぼう菜を使用したケークサレ、そして基調講演をいただいた奥野田葡萄酒醸造株式会社のワインとぶどうジュースを囲んで活発な意見交換が行われました。